

会派別議員名簿

Table with columns for Party, Name, Age, Election Count, Votes, Committees, and Residency. It lists members from various parties including 創盛会, 盛友会, 市民連合, 共産党, 絆の会, 公明党, and 無.

注1: 年齢、役職等は平成25年4月1日現在。
注2: ◎=代表質問: 持ち時間40分、○=一般質問(一括): 30分、△=一般質問(一問一答): 15分
注3: 委=委員長、副=副委員長。

豊村徹也の連絡先: 自宅

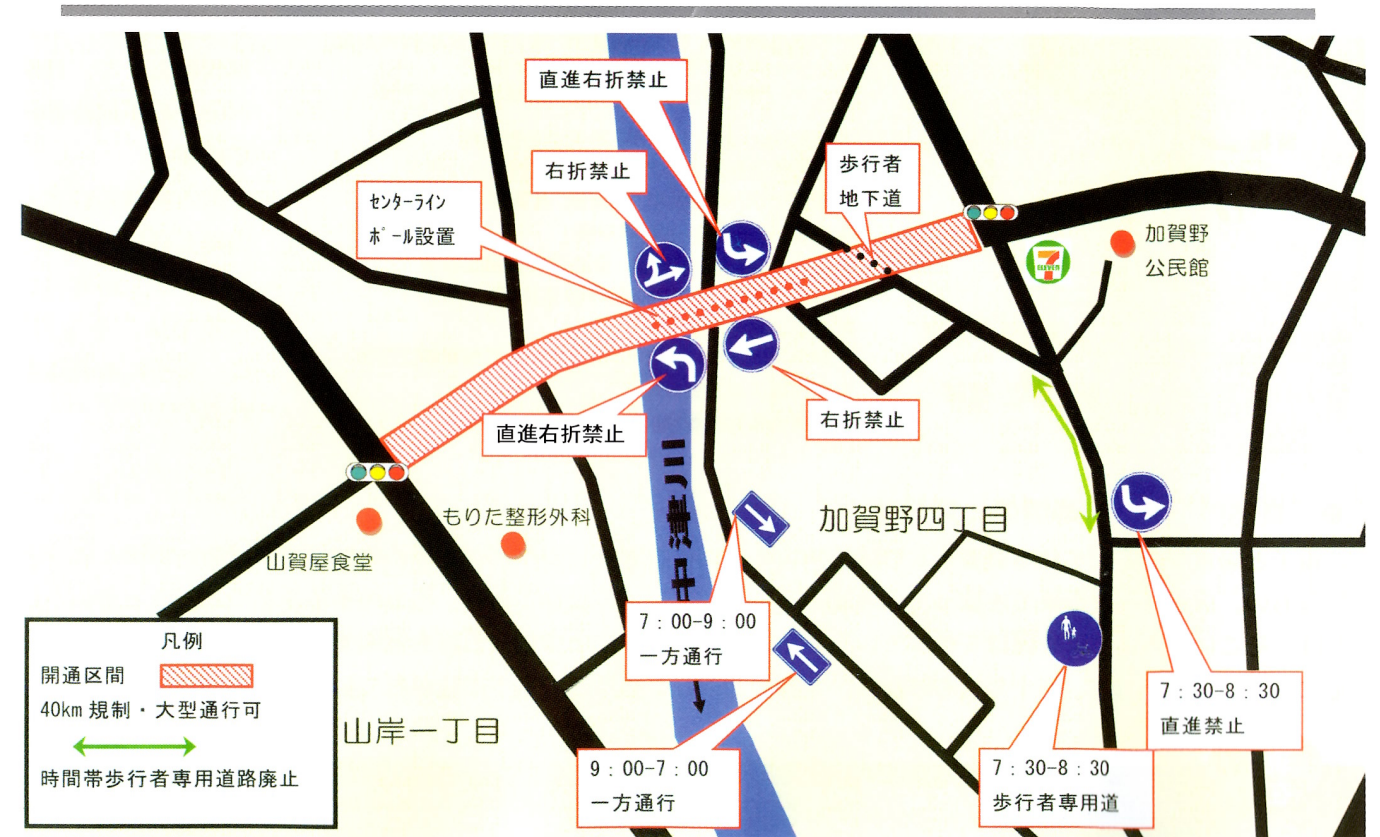
〒020-0004 盛岡市山岸三丁目23-10 TEL・FAX 019-661-4124 携帯 090-5185-0308
E-mail: t-toyumura@icnet.ne.jp http://www.icnet.ne.jp/~t-toyumura/

※当レポートは政務調査費により作成しています。

豊村てつや市議会レポート

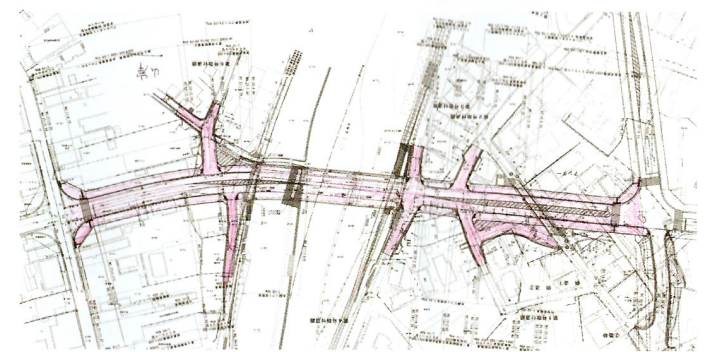
新山賀橋「5月29日」に開通

～供用開始に伴い交通規制が大幅変更～



平成23年2月に解体され、2年余り通行止めとなっていた山賀橋が開通します。新橋梁は、幅員16m=(車道3m+歩道3.5m+路肩1.5m)×2、山岸側交差点は30mの右折レーンがあり17mの幅員、加賀野側交差点まではゼブラ帯が設置され17mの幅員となります。
なお、中津川左岸道路(浅岸、加賀野側)と新橋梁の交差点部分はセンターラインポールで仕切られることから、右折禁止となるなど交通規制が大幅に変更されますので、ご注意ください。

事業施行区域の実寸縮小図(赤色部分が整備区域)



豊村てつやプロフィール



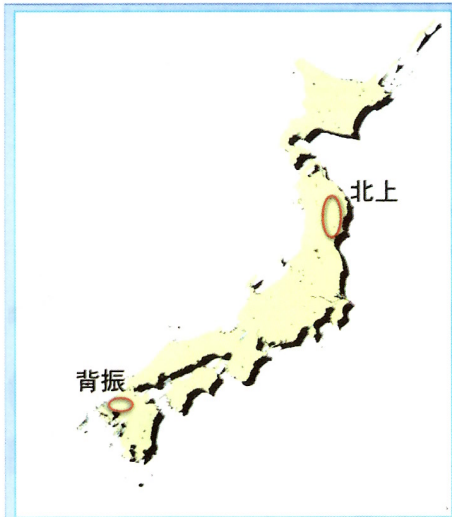
昭和29年4月25日 一関市生まれ
48年3月 盛岡一高卒業
54年3月 成蹊大学法学部卒業
54年4月 岩手県信連入会
平成15年3月 同上退職
15年5月 盛岡市議会議員
19年4月 同上再選
23年8月 同上三選

家族: 妻、長男、オカメインコ
血液型: O型
趣味: オカリナ・ケーナの演奏、音楽鑑賞、テニス

平成25年3月現在の主な役職と連絡先

- List of roles and contact information for various organizations including 山岸三丁目町内会, 山岸地区町内会連合会, 山岸地区福祉推進会, etc.

—東日本大震災からの復興に向けて—



東北「北上山地」 1990年代初頭から地元の検討開始

- ▶東北加速器基礎科学研究会(2009発足): 東北6県
- ▶東北大学、岩手県、宮城県、東北経済連合会が中核
- ▶ボーリング調査 → 分析良好
- ▶岩手県: 復興構想会議にTOHOKU国際科学技術特区の中核としてILCを提案(2011年5月~)
- ▶東北研究会から関係省庁 などへの要望書(2011年月中旬)
- ▶国際エリア構想/東北ビジョン構想策定(2012年7月10日)

「復興のシンボル」 長期復興・再生計画

- ・岩手県・宮城県の復興ビジョンに位置づけ
- ・岩手県・市での経済界・産業界の支援団体設立
- ・東北大学ILC推進協議会(2012/7)
- ・東北研究会→東北推進協議会(2012/7/10)

九州「背振山地」 2000年頃から地元の検討開始

- ▶先端基礎科学次世代加速器研究会(2007発足)
- ▶九州大学、佐賀大学、福岡県、佐賀県
- ▶佐賀県「新産業・基礎科学課」
- ▶九大・佐賀大合同組織、自治体の推進室設置
- ▶地質調査(基礎資料・済) → 分析良好
- ▶産学連携を推進中
- ▶2012年1月末に沖縄・山口県を含めた広域組織に拡張
- ▶九州経済連合会と連携
- ▶九州地域連携戦略に位置づけ(2012年春)

- 地域の大学、自治体、経済団体が主導
- ILCの理解啓蒙の促進
- サイト地質・都市計画等の調査・検討

ILC (国際リニアコライダー: 直線衝突加速器) は、現在、スイスの欧州合同原子核研究所セルンにあるLHC (円形大型加速器) の次世代型として、日本への建設が期待されています。

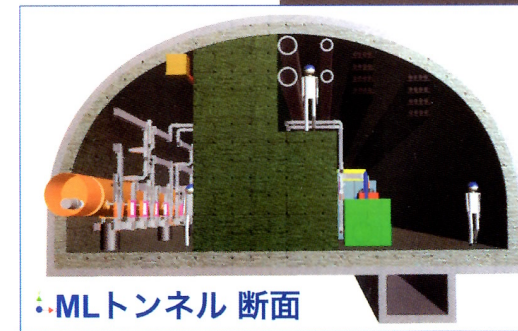
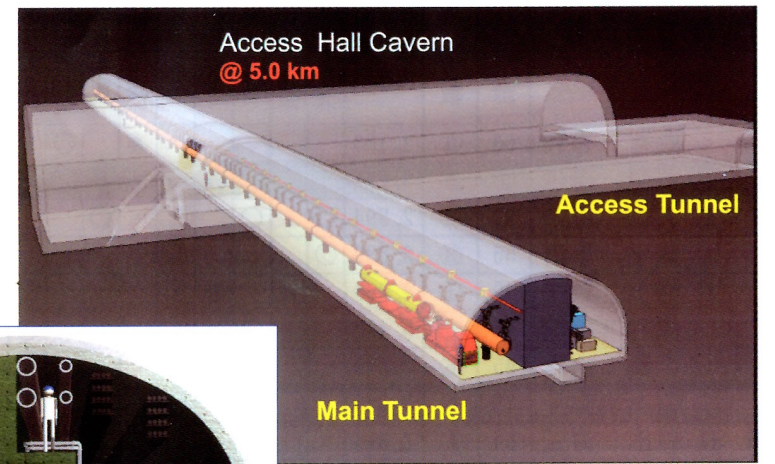
国内候補地は北上山地と脊振山地の二つですが、研究者レベルでは、本年7月に一カ所に絞り込まれる予定です。

国際リニアコライダー ILC を岩手に誘致しよう

ILC 建設候補地の条件は「活断層がなく、50kmのトンネルが建設できる安定した岩盤」であることで、本県の南部北上山地の花崗岩岩盤帯「人首岩体・千厩岩体」が有数の適地であることが確認されました。

トンネルは、地下100mの深さに建設され、

第一期計画では31km (江刺~室根)、将来は50km (江刺~室根~気仙沼) への拡張も計画されています。



MLトンネル イメージ

MLトンネル 断面

◆「自然のしくみ」解明のヒストリー

電子と陽電子を衝突させる装置 ILC は、宇宙の初めに起きたビッグバンを極小の領域で瞬間的に再現しようとするもの。広大な宇宙の果てを探っていけば、そこには素粒子の世界があり、極小の単位を見つけようと追いかければ、そこには宇宙が口を開けて待っている。ILC は、まさに宇宙創成の謎を解明する実験施設であり、北上山地に誘致が実現すれば、何十年にもわたり、人類の知的好奇心はこの岩手に注がれていくことになります。

現在

自然解明が新技術を生み出し、社会全体の枠組みを変革した偉大な科学の歴史がある。

21世紀

- 物質構造解析加速器
- PET(ガン)の早期発見
- 粒子線ガン治療
- 素粒子物理: 放射線(光子、中性子、陽子、重粒子)や反物質の応用が分析技術、新薬の製造、医療を変えた
- 量子電磁気学: 超高速コンピュータ、大容量通信、携帯電話社会への道を開拓した
- 量子力学: 半導体、レーザ等の発明を誘発した

20世紀

- 相対論: 原子力発電の実用化に貢献し、人類のエネルギー資源の選択の幅を広げた
- 電磁気学: 発電、電動力、照明、電信、電話、テレビ等を世に送り、家庭の電化と情報化の道を拓いた

19世紀

- ニュートン力学: 土木技術、建築技術の基礎を確立。船、鉄道、自動車の格段の進歩を促し、航空機、ロケットさらには人工衛星を実現した

18世紀

◆「加速器」は最先端技術の結晶

ILC 建設投資額は、8,743億円と想定され、そのうちホスト国としての日本の負担は4,843億円、建設期間(10年)、運用期間(20年)を通じた経済波及効果(全国ベース)は、生産誘発額で約4.3兆円、誘発雇用者数で約25万人(約8300人×30年間)と推計されます。岩手県、そして東北の未来~米国カリフォルニアにあるシリコンバレーのような先端産業が多数集積する地域を目指そうではありませんか。

